

## 【草花の部屋】

### ペチュニア（ナス科ツクバネアサガオ属 Petunia）

**和名**：ペチュニア **別名**：ツクバネアサガオ（衝羽根朝顔） **英名**：

ナス目 多年草 **原産地**：南アメリカ

**花言葉**：変化に富む、あなたがそばにいると心が和む

**花の色**：赤、赤紫、紫、青紫、白、白黄、白青、桃など



← **写真-1** ペチュニア

撮影日：2013 年 7 月 11 日  
撮影場所：ヴィコ・ソプラノ村  
（スイス）にて  
撮影者：M さん



← **写真-2** ペチュニアの花

撮影日：2013 年 7 月 11 日  
撮影場所：ヴィコ・ソプラノ村  
（スイス）にて  
撮影者：M さん

イタリアとの国境近く、オーバーエンガディン地方の小さな村を散策中に見かけました。プランターに植えられ、窓辺に置かれていました。見たことの無い、紫色(紫と言うよりは黒に近い紫)の花が気になって近づいてみると、ペチュニアでした。赤、色、桃色は日本でもよく見かけますが紫は・・・。本来の和名はツクバネアサガオですが、今回は、一般に知られているペチュニアを和名に使用しました。

南アメリカに自生するペチュニア・アキシラリス、ペチュニア・インテグリフォリアをもとに、ヨーロッパやアメリカで品種改良が進み、多様な品種が・・・。花の大きさは大輪、中輪、小輪、花の色は赤、赤紫、紫、青紫、白、白黄、白青、桃など多彩で、また八重咲きのものが作出されるなど、花容がバラエティに富んでいるそうです。当初は草丈が高く、花数が少なかったものも、匍匐性で、花数が多いものになったそうです。葉は茎の上部で対生、下部で互生し、柄は殆どない。

日本には「ツクバネアサガオ」の名称で渡来し、寒さに弱いため専ら一年草として扱われたそうです。雨で育成不良や、枯れる事が多々あることから人気は今ひとつだったそうですが、サントリーが日本の気候に適応できるよう、品種改良した「サフィニア」を出してから、人気が高まり、園芸各社で品種改良の競争が進み、一層の多様性を深めているそうです。現在では、特に日本で、品種改良の競争がもっとも激しいと言われる種。

ペチュニアは丈夫な花。水はけと日当たりのよい場所に植えれば、簡単に次々と花を咲かせてくれますが、過湿や日照不足では茎が徒長して軟弱に育ってしまい花つきも悪くなってしまいます。過湿にならないように水やりのメリハリをつけるようにすることが大事。特に花壇植えの場合は事前に水はけの改善を行うと良いそうです。

ハンギングや吊鉢は性質によく合って元気に育ちますが乾かしすぎないように・・・。種をつけやすいので、花つきを維持するために花がらは、摘み取ると良いそうです。

植え付け初期には摘心を行って枝を増やし、伸びすぎたら、元気な葉を残して切り戻す。夏前に一度切り戻しを行えば秋にきれいな姿で咲いてくれます。

<ちょっと一言>

＊「サフィニア」：ペチュニアの新品種。これは1989年にサントリーが開発。”サーフ（波）”と”ニア”を組み合わせた名前。

＊学名のhybridaは「雑種」の意味。